

農山漁村の案内に役立つ [便利帳]



農たび
北海道

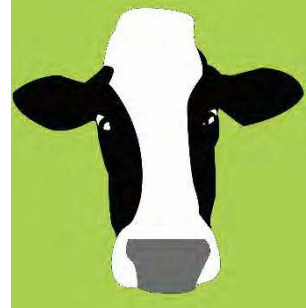


森たび
北海道



浜たび
北海道

農山漁村の案内に役立つ [便利帳] 目次



はじめに／本書の使い方	P 1
第1章 都市農村交流の意義と農山漁村における観光の現状	
1 都市農村交流の意義	P 2
2 北海道観光の現状	P 3
3 農村ツーリズム・農泊の推進状況	P 6
第2章 地域を案内する際の法令上等の注意点	
1 関係法令等の把握と遵守	P 8
2 自然環境の保全	P 11
3 自家用自動車による運送	P 13
第3章 安全を確保するための措置	
1 安全管理（＝危機管理（リスクマネジメント））の考え方	P 15
2 危険の要因	P 15
3 対応策の事例	P 16
4 事故への対応	P 18
5 賠償責任と保険制度	P 19
第4章 農地や畜舎に立ち入る際の注意点	
1 病害虫の侵入防止対策	P 20
2 家畜の伝染病の防疫対策	P 26
第5章 新型コロナウイルス感染症対策	
1 コロナ対策の基本的な考え方	P 35
2 コロナ対応ガイドラインの紹介	P 36

第6章 農山漁村を案内する取り組みの事例紹介…………… P 38

- 1 漁港におけるガイドの取り組み
漁港ガイド 吉田 眞也 氏 (余市町)
…………… P 39
- 2 体験型観光や教育旅行を推進する取り組み
(有) アグリテック代表取締役 中田 浩康 氏 (東川町)
…………… P 42
- 3 エコツアーや自然体験活動の取り組み
NPO法人大雪山自然学校代表理事
荒井 一洋 氏 (東川町)
…………… P 47
- 4 農山漁村のフィールドを活かした取り組み
ツアーガイド 田中 聡志 氏 (網走市)
…………… P 51
- 5 元ALT (外国語指導助手) による地域資源活用の取り組み
エリアガイド フレイジャー ジョーダン 氏 (滝上町)
…………… P 56
- 6 地域の連携による受け入れ体制づくりの取り組み
NPO法人北海道ツーリズム協会理事長
武田 耕次 氏 (鹿追町)
一般社団法人E n代表理事 正保 縁 氏 ()
…………… P 60
- 7 酪農体験による団体旅行者等の受け入れの取り組み
カントリーファーマーズ藤田牧場体験責任者
藤田 磨美 氏 (鹿追町)
…………… P 63
- 8 外国人を専門にしたガイドの取り組み
森林ガイド 馬上 千恵 氏 (札幌市)
…………… P 67

はじめに／本書の使い方

北海道では、かねてより「緑豊かな農山漁村において、自然、文化、人々との交流を楽しむ滞在型の余暇活動」であるグリーン・ツーリズムを推進してきました。

そして、取り組みが長年続く中で、高齢化などの理由から受け入れを休止する農家が増えてきているほか、地域資源を活かした観光コンテンツや情報発信の不足といった課題が浮き彫りになったことから、道では、平成29年度から農林漁業者のみならず観光業をはじめとする多様な主体が連携し、地域ぐるみで所得向上や交流促進により地域の活性化を目指す新たなツーリズムとして「農村ツーリズム（愛称：農たび・北海道）」を推進しています。

近年、畑や山林、港などの農山漁村の現場に都市部や海外から旅行者を受け入れ、ガイドによる案内や体験活動の提供等を通じて地域の魅力を知ってもらう取り組みが増加していますが、その効果は所得向上や地域の賑わいに止まらず、地域住民との交流により将来にわたってその地域に関心を持ち、リピーターとして再訪することや、遠方においても特産物の購入等を通じた応援などのつながりを継続する関係人口、さらには移住・定住に発展することも期待されます。

そこで、道としては、このような地域の活性化に資する取り組みを積極的に推進するため、案内等に当たっての留意点や参考となる情報を紹介する「便利帳」を作成し、地域において旅行者の受け入れに携わる関係者の皆様に広く利用していただくことで全道的な取り組みの普及・拡大につなげたいと考え、本書を発行しました。

本書は、農山漁村に旅行者を受け入れる上で、安全確保対策を講ずるべきことはもちろん、法令を遵守する上で必要なことや、農作物や家畜を病害虫や伝染病から守るための対策など、関係する個々の制度や防疫指針等を集約しているほか、実際に道内において地域資源を活かして旅行者を受け入れている実践者の方の取組事例を紹介しています。

また、昨年は新型コロナウイルスのパンデミックが発生し、現在もその治療法が確立しておらず、国際的な自由な往来が制限され、その感染防止に万全を期すことが求められておりますことから、関係する業界団体などが策定しているガイドライン等を反映するよう留意しました。

この「便利帳」を、これから農山漁村において受け入れの取り組みを始めようとする方のスタートアップの一助として、また、既に受け入れを行っている関係者の皆様に取り組みを再確認するためのツールとして御活用いただければ幸いです。

令和3年（2021年）3月

